



旧奥鎮守府司令官官舎



佐世保市民文化ホール
(旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)



3トンスチームハンマー
(旧横須賀製鉄所設置)



舞鶴赤れんがパーク
(舞鶴旧鎮守府倉庫施設)

旧軍港四市 日本遺産に認定



鎮守府 横須賀・奥・佐世保・舞鶴
日本近代化の躍動を
体感できるまち



文化庁の日本遺産認定を受けて、4月25日に赤れんがパークで発表と記者会見が行われ、26日には、市役所本庁で懸垂幕の掲揚式を開催。市民や関係者の皆さんと共に喜びを分かち合いました。

文化庁の「日本遺産」に、「鎮守府 横須賀・奥・佐世保・舞鶴」日本近代化の躍動を体感できるまちのストーリーが認定されました(4月25日付)。これは、横須賀市・奥市・佐世保市・舞鶴市の旧海軍の鎮守府が置かれた四市で共同申請していたもの。日本遺産とは、文化庁が地域特有の歴史的魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを認定する制度で、今回、認定されたストーリーは、日本で唯一、旧海軍の拠点である鎮守府が置かれた歴史を持つ四市が、鎮守府設置に伴い近代化を果たし、現在も多く残る当時のさまざまな建造物や遺産を巡り、当時を体感できるというものです。

本市においても、当時鎮守府のあった海上自衛隊付近を中心に整備された市街地や水道施設、鉄道施設などの多くの文化遺産が点在しています。今回の認定を受けて、旧軍港四市で連携した広域的なより一層の観光PRを図っていきます。

ストーリーの概要

明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を押し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしさも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。

緊迫する国際情勢の中、舞鶴鎮守府は明治34(1901)年、日本海の護りの拠点として開庁しました。舞鶴湾は急峻な山で囲まれ、湾口は狭く、リアス式海岸特有の大きく入り組む穏やかな湾で、艦船が停泊できる絶好の条件を有していたことから、海軍の拠点となる鎮守府の地として選ばれました。海で囲まれた日本の海域を防衛するために国内に4か所だけ設けた艦船の造船・補給の役割を担うもので、当時の最新の技術を駆使して現在の造船所の前身となる海軍工廠や、赤れんが造りの施設、護岸などの港湾施設のインフラ整備が国によって推し進められました。静かな農漁村だった舞鶴は、軍人や海軍工廠で働く人、その家族などで人口が増加するの

に伴い、東舞鶴と中舞鶴には碇盤の目状の新市街地が整備されました。東舞鶴の通りには当時の軍艦である三笠や敷島といった33隻の名称が付けられ、現在も残っています。鎮守府施設や艦船へ使用する良質な水道水を確保するために、現在の与保呂地区の桂と岸谷に堰堤が設けられ、今も水道施設として市民に水を供給しています。鎮守府への人や物資を迅速に移動させるために京阪神方面からの鉄道整備も行われ、現在も橋梁やトンネルなどは現役で使用されています。鎮守府初代司令長官であった東郷平八郎が留学先のイギリスで食べたビーフシチューを模して作らせたといわれる「肉じゃが」は、舞鶴が養育の地とされています。

index

- 2 旧軍港四市 日本遺産認定
- シリーズ市政の「今」
- 4 地域で北陸新幹線府北部ルートの誘致実現へ
- 6 市内学校めぐり 舞鶴工業高等専門学校
- 8 舞鶴の夏の味覚ぞくぞく登場 舞鶴の「うまい」を全国へ
- 10 TOPICS
- 11 EVENT PICK UP
- 12 原子力災害住民避難計画(改正版)
- 14 平成29年4月採用 市職員募集
- 18 舞鶴動く場ガイドを公開 ほか
- 20 市政情報BOX
- 22 連載コーナー・広報クイズ
- 熊本地震に対する被災地支援 叙勲・褒章の受章者、全国大会等 出場者を紹介
- 24
- 25 マイ健康通信
- 26 お知らせコーナー
- 32 まいづる元気人、花図鑑

今月の表紙



北陸新幹線府北部ルート誘致を目指す懸垂幕の掲揚式で保育園児が「新幹線来てね」と元気に声を上げ、風船を飛ばしました。